

コレゴヌス(会津ユキマス)孵化仔魚輸送方法の検討

福島県内水面水産試験場 生産技術部
平成17年事業報告

1 部門名 水産業－内水面(増養殖)－内水面養殖業－コレゴヌス

分類コード 19-08-23640000

2 担当者 實松敦之・神山享一

3 要旨

現在、養鱒業者にコレゴヌス(以下、会津ユキマスとする)の普及を図っており、福島県内水面水産試験場から0.5～10gの種苗を供給している。今後、養殖業者による完全養殖を確立するためには供給する種苗を孵化仔魚、発眼卵と段階的に移行することが普及方法として有効と考えられる。

そこで、孵化仔魚の出荷に必要な輸送方法を検討した。

供試魚は試験当日～4日前に孵化した仔魚を用いた。

試験区は輸送区と対照区を設定した。輸送区は、36cm×46cmのビニール袋に1.5ℓの地下水を入れ、孵化仔魚1,200尾を收容し、酸素を封入し、ビニール袋内の水温を12～13℃に保って蓄養した。対照区は、容積7ℓのポリバケツに1.5ℓの水を張ったものを收容水槽とし、これに1,200尾の魚を收容した。試験期間中は常時12～13℃の地下水を0.2ℓ/分で注水した。

斃死魚の計数は收容から1, 2, 3, 4, 5, 6, 24, 48, 72時間後に行った。

1～72時間後の全ての経過時間を通しての生残率は、対照区、輸送区ともに99%以上であり、両区に差はなかった。

輸送区の斃死魚を観察すると頭部等、体の一部が潰れている個体が多く斃死の原因の多くがビニール袋に挟まれたことによるものと考えられた。

以上のことから、会津ユキマスの孵化仔魚は水温を12～13℃に維持した条件下で、ビニール袋に酸素詰めすることで輸送できると考えられた。

4 その他の資料など

なし